

令和7年度みきっ子未来応援協議会 家庭・地域・学校教育委員会議事録

1 期 日

令和8年2月17日（火） 19:00～20:30

2 場 所

教育センター 4階中研修室

3 出席者

(1) 委 員

河原正則部会長、百瀬和夫委員、黒田リエ委員、石川緑委員、
小紫昭子委員、金鹿功委員、小林誠和委員、中谷肇委員、浅和直子委員

(2) 事務局

武内学校教育課課長、小池教育センター所長、八幡青少年センター所長、
平田子どもいじめ防止センター長、藤原生涯学習課係長、
河賀学校教育課課長補佐

4 部会長・副部会長紹介

河原正則部会長、生田哲久副部会長（当日欠席）

5 委員自己紹介

6 協議事項

「家庭・地域・学校が一体となった人づくりに関すること」

(1) 事例及び現状

- ・ 青少年の健全育成に係る取組状況について（青少年センターより）
- ・ 地域と学校の連携・協働体制推進事業について（生涯学習課より）
- ・ 三木市のめざすコミュニティ・スクールについて（学校教育課より）

(2) 意見交換

部会長： 事務局の説明についてご意見うかがいたい。

委員①： 通学路での見守りや学校教育への協力等、三木市は地域の方々からの支援が厚いと感じている。

高校においてもコミュニティ・スクールの導入が推進され、三木市の小・中学校のように、進めていきたいと考える。

委員②： 価値観の多様化が進み、何が「健全」で何が「幸せ」なのか、指導が非常に難しい時代だと感じている。犯罪の認知件数は減少しているが、SNS を通じたトラブルや薬物の低年齢化等、見えにくい問題が深刻化している。スマートフォンが「有害玩具」になりかねない時代、どう子どもを導いていくかが問われていると感じる。

委員③： 私はこれまで多くの人との出会いの中で成長してきた。現在、地域のつながりが希薄になってきているが、やはり人との出会いこそが人を育てるのだと、今日話を聞いて再確認できた。

委員④： 各校で行われている学習支援について、学校独自の取組なのか市の事業なのか、どう棲み分けされているのか教えてほしい。また、コミュニティ・スクールについても、委員同士がアイデアを出し合う「熟議」の文化がまだ現場に浸透しきっていない面もあるため、他校の好事例を横展開してほしいと願う。

薬物問題については、最近では違法薬物だけでなく、市販の風邪薬などを過剰摂取する「オーバードーズ」が SNS で流行しており、深刻な健康被害や死に至るケースも出ている。学校での薬物乱用防止教室でも、こうした身近な薬の危険性についても踏み込むべきだと考える。

委員⑤： 地域の子どもの減少及び垣根隊の担い手の高齢化が進んでいる中、見守り活動の継続を含めた今後の在り方も課題である。

委員⑥： スクールバスによる通学において、登下校における見守りの形が、地域の見守りから保護者による見守りへ移行したと感じている。

また、スマートフォンの問題は深刻であり、親が制限をかけても子どもは解除する方法を調べ、すり抜け、ネット社会の中で見知らぬ誰かと繋がるのが可能な状態である。家庭だけで管理するのは限界だと感じている。

委員⑦： ネット社会への対策として、海外では幼児教育から「この情報は誰が発信し、誰が得をするのか」を考える教育が行われている例もある。学校だけでなく、家庭や地域で「情報の裏を読む力」

を育てていくしかないと考える。

部会長：　ここで、委員よりご助言いただく。

助　言：　人間は五感を使って成長する。デジタルに偏らず、地域の力を使って「寄ってたかって子供を育てる」という発想は非常に大切である。

　　これからの時代、AIに勝てる人間の力は「創造性」と「人の気持ちを汲み取る力」である。子どもたちが自ら主体的に学びたいと思える環境を、コミュニティ・スクールを通じて作っていただければ素晴らしいと思われる。

部会長：　各委員とも大変活発にご意見を出していただき、様々な視点から子どもたちのことについて考えることができたように思う。積極的な発言感謝申し上げ、意見交換を終了する。

事務局：　貴重なご意見感謝申し上げます。今後の施策に生かして参りたいと考える。これにて部会を終了とする。（副部会長欠席のため、閉会あいさつ無しで会を閉じる。）